



## 2019年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年7月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 2018年8月9日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第1四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	28,299	1.7	1,215	8.9	1,449	25.4	1,097	40.8
2018年3月期第1四半期	27,822	5.2	1,116	△2.9	1,155	50.2	779	△8.6

(注) 包括利益 2019年3月期第1四半期 1,104百万円 (8.3%) 2018年3月期第1四半期 1,019百万円 (△21.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	45.68	ー
2018年3月期第1四半期	32.43	ー

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第1四半期	76,056	44,824	58.9	1,865.78
2018年3月期	79,505	43,984	55.3	1,830.82

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 44,824百万円 2018年3月期 43,984百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	ー	10.00	ー	11.00	21.00
2019年3月期	ー				
2019年3月期(予想)		11.00	ー	11.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	53,900	2.5	800	△31.7	900	△30.6	600	△33.4	24.97
通期	120,700	2.6	5,200	0.4	5,300	△0.4	3,600	△1.6	149.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期1Q	27,700,000株	2018年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	2019年3月期1Q	3,675,586株	2018年3月期	3,675,586株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期1Q	24,024,414株	2018年3月期1Q	24,024,529株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、通商保護主義の高まりによる貿易摩擦の懸念や、各国の政治情勢の不確実性があつたものの、堅調な世界経済を背景に、設備投資や雇用・所得環境の改善が継続し回復基調が続きました。

菓子・飲料・食品業界は、景気回復による個人消費の改善が期待され、消費者の高付加価値商品への需要が高まる一方で、依然として将来への不安は根強く、低価格を求めるニーズも続きました。

このような状況下で、当社グループは一貫して、食品製造企業として品質保証第一主義に徹し、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と、消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、働き方の変化や女性の活躍推進、共働き世帯の増加などによる消費スタイルの多様化と消費者の多種多様な嗜好への対応として、求められる価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組み、きめ細かい店頭フォロー活動や地域のニーズに合わせた企画提案型の営業活動、品揃えの強化と付加価値を高めた魅力のある商品開発を通して、お客様の満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、ビスケット品目、チョコレート品目、冷菓品目などが伸張し、売上高は前年同期を上回りました。利益面では、売上高の伸張とコスト削減、生産性の向上、経費の効率的な使用などに取り組んだことにより営業利益は伸張し、為替差益や投資有価証券の売却により経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益も前年同期を上回りました。

また、平成30年7月の西日本豪雨で甚大な被害を受けた地域に、当社はミネラルウォーターやお菓子の支援物資をお届けさせていただきました。被災された地域の皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く復旧できますことを心よりお祈り申し上げます。

### 営業品目別の概況

菓子の合計売上高は26,552百万円(対前年同期比101.1%)となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目は、素材や製法にひと工夫して1枚1枚のおいしさにこだわったビスケット、グレイスフルビスケットシリーズを新たに発売しました。また、季節に合わせた味の展開として、抹茶フェア、サマーフルーツフェア、夏塩フェアを実施しマイベネフィット商品群が伸張しました。さらに、米麴から作った甘酒を加えた「甘酒仕立てのウエハース」や、ブルンドミルクチョコレートでコーティングしたエリーゼ「ショコラエリーゼブルンドミルク」など特徴のある商品を発売し大変好評をいただきました。キャンデー品目は、シュワッと爽快なキューブ状ドロップ「キュービドロップソーダ」を発売するとともに、塩分やミネラルを手軽に補給できる「ミネラル塩飴」で環境省が参画する“熱中症予防声かけプロジェクト”に継続して参加しました。グミ商品群ではクセになるプルコリ新食感の「レヴォグミ」シリーズを新たに発売したほか、「フェットチーネグミ」シリーズにレモンとソーダの爽快感のあるレモンスカッシュ味を加え品揃えの充実を図りました。さらにチョコレート品目は、チョコミントとお餅のコンビネーション「もちもちショコラチョコミント味」など、ひんやり爽やかな冷涼感の広がる商品展開を行いました。また、夏の味わい商品としてバナナ味や塩バナナ味のチョコレート商品群も好評をいただきました。「アルフォートミニチョコレート」シリーズにおいては、期間限定で母の日企画のプレミアム濃葛やプレミアム濃茶を発売しました。ロングセラー商品のオリジナルビスケットシリーズ、半生商品群のパーティ商品、焼菓子商品群のエリーゼやロアンヌシリーズ、板チョコレート商品群、ファミリーサイズ商品群などが伸張し前年同期を上回りました。

飲料・食品・その他の合計売上高は1,746百万円(対前年同期比111.4%)となりました。

飲料品目は、スポーツ支援商品「ウィングラム」シリーズや熱中症対策飲料としても利用可能な「おいしいココナッツミルクPET430」の拡販を図りました。また、牛乳でおいしいココアシリーズのボトル缶は、取扱店の拡大により伸張したものの、競争激化の状況下でミネラルウォーター商品群が伸び悩んだことなどから前年同期を下回りました。

食品品目は、糖質控えめのごはんが炊ける「低糖質ごはん米」や粉末ココア商品の活性化に取り組んだほか、前期末にアルコール0%にリニューアルしたマルチスタイルスイーツ「スライス生チョコレート」シリーズで、新しい食べ方提案を訴求し拡販を図りました。一方、機能性食品では、栄養調整食品「スローバー」シリーズにチーズクッキーを発売し、品揃えの充実と販売強化に取り組まれました。品目全体では、保存缶商品の需要が落ち着いたことや、既存品の伸び悩みなどにより前年同期を下回りました。

冷菓品目は、前期末に地域限定で発売した「ルマンドアイスロイヤルミルクティー」の販売エリア拡大を進めたほか「ルマンドアイス」の伸張により前年同期を上回りました。

その他では、通信販売事業は、魅力的な品揃えにより顧客の拡大とリピーターの増加に取り組み、菓子類、お米、飲料、酒類などが伸張しました。

自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの設置環境の選択による収益効率の向上に取り組んだほか、展開推進による台数の増加に伴って伸張しました。

一方、酒類販売事業は、クラフトビールへの関心が継続するなか、フルーツ感とスパイシー感たっぷりの限定醸造ビール「ALWAYS A WHITE (オールウェイズ ア ホワイト)」を新しく発売しました。ギフト商品や輸出などが好調に推移し前年同期並みとなりました。また、アメリカ、ニューヨークで開催された「第7回 New York Beer Competition」に4商品を出品し、「プレミアムレッドエール」が金賞を受賞しました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は28,299百万円(対前年同期比101.7%)、営業利益は1,215百万円(対前年同期比108.9%)、経常利益は1,449百万円(対前年同期比125.4%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,097百万円(対前年同期比140.8%)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は35,583百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,611百万円減少となりました。これは主に、季節変動による受取手形及び売掛金の減少があったことによるものです。固定資産は40,472百万円となり、前連結会計年度末に比べ162百万円増加となりました。

この結果、総資産は76,056百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,449百万円減少となりました。

### (負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は23,598百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,132百万円減少となりました。これは主に、季節変動による支払手形及び買掛金、未払費用の減少と設備投資に伴う未払金および法人税等の支払並びに賞与の支給があったことによるものです。固定負債は7,634百万円となり、前連結会計年度末に比べ156百万円減少となりました。

この結果、負債合計は31,232百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,289百万円減少となりました。

### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は44,824百万円となり、前連結会計年度末に比べ839百万円増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上および剰余金の配当があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は58.9%(前連結会計年度末55.3%)となりました。

## ・連結キャッシュ・フローの状況に関する説明

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は16,611百万円となり、前連結会計年度末(17,942百万円)に比べ1,331百万円減少となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は1,186百万円(前年同期1,718百万円の収入、対前年同期比69.0%)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,545百万円があったことによるものです。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2,138百万円(前年同期1,335百万円の支出、対前年同期比160.1%)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,306百万円があったことによるものです。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は374百万円(前年同期352百万円の支出、対前年同期比106.1%)となりました。これは主に、配当金の支払額257百万円があったことによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2018年4月27日の「2018年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,804	16,476
受取手形及び売掛金	14,513	10,903
有価証券	137	134
商品及び製品	3,707	4,625
仕掛品	484	520
原材料及び貯蔵品	2,332	2,458
その他	225	472
貸倒引当金	△10	△7
流動資産合計	39,195	35,583
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,500	14,358
機械装置及び運搬具(純額)	10,471	10,283
その他(純額)	7,513	8,526
有形固定資産合計	32,484	33,168
無形固定資産		
のれん	1,320	1,291
その他	398	375
無形固定資産合計	1,718	1,666
投資その他の資産		
その他	6,108	5,637
貸倒引当金	△1	△0
投資その他の資産合計	6,106	5,637
固定資産合計	40,310	40,472
資産合計	79,505	76,056

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,541	12,162
短期借入金	1,770	1,770
未払法人税等	1,265	177
賞与引当金	1,140	508
返品引当金	32	32
その他	10,981	8,948
流動負債合計	27,730	23,598
固定負債		
長期借入金	650	600
役員退職慰労引当金	261	223
退職給付に係る負債	5,935	5,877
負ののれん	19	19
その他	923	914
固定負債合計	7,790	7,634
負債合計	35,521	31,232
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	6,790	6,790
利益剰余金	37,203	38,037
自己株式	△941	△941
株主資本合計	44,089	44,922
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	710	645
為替換算調整勘定	△569	△516
退職給付に係る調整累計額	△245	△226
その他の包括利益累計額合計	△104	△98
純資産合計	43,984	44,824
負債純資産合計	79,505	76,056

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
売上高	27,822	28,299
売上原価	16,203	16,594
売上総利益	11,619	11,705
販売費及び一般管理費	10,502	10,489
営業利益	1,116	1,215
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	32	33
受取賃貸料	4	3
為替差益	—	154
負ののれん償却額	0	0
その他	20	47
営業外収益合計	58	240
営業外費用		
支払利息	0	0
減価償却費	3	4
賃貸収入原価	2	2
為替差損	13	—
その他	0	0
営業外費用合計	19	7
経常利益	1,155	1,449
特別利益		
固定資産売却益	0	—
投資有価証券売却益	—	108
特別利益合計	0	108
特別損失		
固定資産処分損	5	11
減損損失	1	0
その他	0	0
特別損失合計	7	11
税金等調整前四半期純利益	1,148	1,545
法人税、住民税及び事業税	129	128
法人税等調整額	240	319
法人税等合計	369	448
四半期純利益	779	1,097
親会社株主に帰属する四半期純利益	779	1,097



(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
四半期純利益	779	1,097
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	108	△65
為替換算調整勘定	96	52
退職給付に係る調整額	35	19
その他の包括利益合計	240	6
四半期包括利益	1,019	1,104
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,019	1,104
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,148	1,545
減価償却費	868	975
のれん償却額	28	28
受取利息及び受取配当金	△33	△34
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	0	0
為替差損益(△は益)	△1	△159
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△108
固定資産処分損益(△は益)	5	11
減損損失	1	0
売上債権の増減額(△は増加)	3,435	3,608
たな卸資産の増減額(△は増加)	△813	△1,082
仕入債務の増減額(△は減少)	△553	△375
賞与引当金の増減額(△は減少)	△592	△631
その他	△833	△1,484
小計	2,661	2,292
利息及び配当金の受取額	33	34
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△975	△1,140
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,718	1,186
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,329	△2,306
投資有価証券の取得による支出	△3	△91
投資有価証券の売却による収入	—	262
その他	△2	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,335	△2,138
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△50	△50
リース債務の返済による支出	△68	△66
配当金の支払額	△233	△257
その他	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△352	△374
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△5
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	26	△1,331
現金及び現金同等物の期首残高	12,996	17,942
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,022	16,611

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。